

# 第 156 回東邦医学会例会 予稿

6 月 17 日(水) 集合集会発表者

## A. 大学院生研究発表

1. **小児重症紫斑病性腎炎の全国疫学調査研究**  
寺野 千香子 (糖尿病・代謝・内分泌学)  
  
小児紫斑病性腎炎 (HSPN) の発症率や臨床経過について、大規模疫学調査は実施されていない。今回本邦で小児重症 HSPN を診療する施設の施設調査、患者数調査を行い、HSPN の罹患率、各施設の腎生検適応、重症度別の治療方針を明らかにした。調査対象 407 施設に調査票を送付し、315 施設から返送を得た。HSPN の罹患率は 1.39/小児人口 10 万人/年、年齢中央年齢 7.5 歳、男女比は 1.1 : 1 であった。
  
2. **MUS 症例のベンゾジアゼピン使用に対するリラクゼーション療法の効果**  
橋本 和明 (心身医学)  
  
Medically unexplained symptoms (MUS) に対する非薬物療法として当科ではリラクゼーション療法を併用している。本研究ではリラクゼーション療法の導入前後のベンゾジアゼピン (BZD) 使用量変化と依存症リスク因子の関連を検討した。リラクゼーション療法終了後の BZD 使用量は有意に減少し、BZD 使用量が減少した群では長期内服者が少なかった。BZD の長期内服者は減量が困難である可能性が示唆され、リラクゼーション療法導入は早期が望ましい可能性が考えられた。
  
3. **肺 MAC 症モデルマウスにおける N-アセチルシステインの効果**  
塩沢 綾子 (生体応答系, 微生物・感染症学講座)  
  
肺 *M. avium* complex (MAC) 症における N-アセチルシステイン (NAC) の効果を検討した。*M. avium* に感染した A-549 細胞および BALB/c マウスにおいて、NAC を投与すると有意に菌数が減少した。クラリスロマイシンと併用したマウスでは肺内菌数の減少に相加効果がみられた。これらの結果は抗菌ペプチド (human  $\beta$  defensin-2) 誘導が関与していることが示唆された。(プロジェクト研究採択番号 19-03)
  
4. **心臓血管外科手術後に人工呼吸管理を要した患者における舌圧の変化が術後嚥下機能に与える影響**  
山田 亨 (高次機能制御系麻酔科学)  
  
嚥下障害患者と舌圧低下には関連があることが言われている。今回、心臓血管外科術後に人工呼吸管理を要した患者 68 名に手術前、抜管後 6 時間後、3 日後、7 日後に舌圧を測定し、舌圧が手術後の嚥下障害を予測可能か検討した。嚥下障害は RSST (repetitive saliva swallowing test) などを用い、陽性患者は 11 名、陰性患者は 57 名だった。陽性患者は陰性患者に比べて抜管後 3 日後、7 日後の舌圧が有意に低かった。